

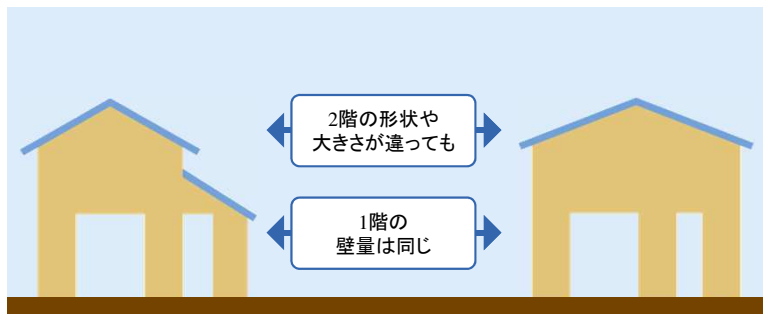
家の形状や大きさに応じて強度の不足を算出し補強を実施

耐震等級3相当※の家づくりでは、壁の量・床の補強・基礎配筋等の仕様において、家の形状や大きさに応じて強度の不足を算出し、しっかりした補強を行うため、開放的な空間であっても安心できる、地震に強い家を実現できます。

スーパーストロング構造体バリュー「耐震等級3」相当※の強さの理由

建築基準法

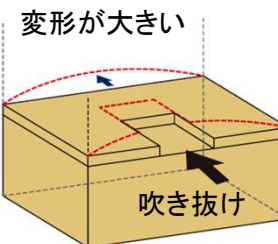
壁が強い



2階の形状や大きさにかかわらず1階の壁の量は一定※です。
※1階の広さにより必要な壁の量を算出します(見付面積で算出する場合があります)。

床が強い

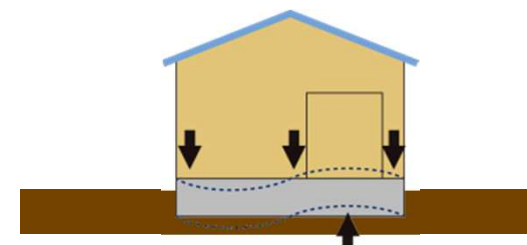
吹き抜けなどで部分的に床がないと弱くなる



床の形状や大きさにかかわらず補強方法は一定※です。
※隅角に火打ち材(補強材)を使用します。

基礎が強い

建物の隅角部や開口部などの柱間隔が大きい部分が弱くなる



地盤の強さに応じて基礎形式を選択するだけで、基礎配筋等の仕様は一定です。

SSバリュー

2階の形状や大きさに応じて

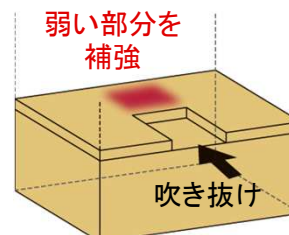
1階の壁量を算出して補強



建物の形や大きさに応じて必要な壁の量を算出し、不足している場合は補強を行うため、地震に強い家といえます。

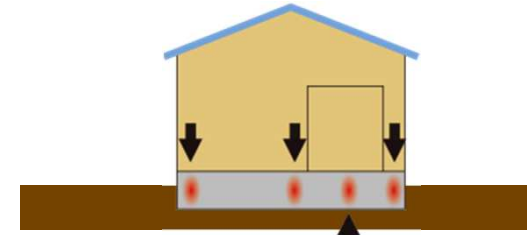
変形にくい

弱い部分を補強



形状や大きさに応じて、必要な床の量を算出し、不足している場合は補強を行うため、地震に強い家といえます。

弱い部分を補強



※「耐震等級3」相当とは、(株)LIXILが建物の構造の安全性に項目を絞りその性能を評価しているため、住宅性能表示とは区別して表示したものです。